

第 1291 回
ウイルス・再生医科学研究所セミナー
ウイルス感染症・生命科学先端融合的共同研究拠点セミナー

演 題： 抗ウイルス応答における自然免疫機構の役割の解明

演 者： 齊藤 達哉 教授
徳島大学先端酵素学研究所

日 時： 2018年9月21日（金）16：00～17：30 / Friday, Sep. 21

場 所： 京都大学ウイルス・再生医科学研究所 3号館
（旧再生医科学研究所 東館）5階ルーフトラス
Roof Terrace, 5th floor of Institute for Frontier Life and Medical Sciences Bldg. No.3

（講演要旨）

現代の日本では、医療・栄養水準の上昇により、多くの国民が長寿を享受している。一方で、過剰な栄養摂取、環境汚染や高齢化など、現代ならではの要因による疾患が顕在化してきている。また、工学の発達に伴い有用な材料が数多く開発されているが、その安全性を慎重に検討する必要性が叫ばれている。尿酸塩結晶などの過栄養摂取により形成される代謝物結晶、黄砂・PM2.5などの環境汚染物質、加齢に伴い増加するβアミロイド、有害材料といった我々の健康を脅かす物質には、刺激性を有する微粒子という共通点がある。国民が長きにわたり健康な生活を営む社会を実現するためには、刺激性微粒子により引き起こされる健康問題を解決することが不可欠である。我々は、刺激性微粒子に反応して炎症を惹起する自然免疫機構の観点から、関連研究を進めている。

自然免疫機構の本来の役割は、病原体の感染から身を守ることである。一方で、自然免疫機構には、刺激性微粒子に誤って反応し、炎症による組織損傷を引き起こす負の側面がある。本講演では、刺激性微粒子を貪食したマクロファージなどの白血球において、NLRP3 インフラマソームと呼ばれる自然免疫機構がサイトカイン IL-1βの放出を介して炎症を惹起するメカニズムについて解説する。さらに、NLRP3 インフラマソーム活性化を阻害する化合物の有用性について、抗炎症効果の検証結果を踏まえて議論する。

（言語：日本語 / Language : Japanese）

主 催： 京 都 大 学 ウ イ ル ス ・ 再 生 医 科 学 研 究 所

世 話 人： ウイルス感染研究部門 感染防御分野

竹内 理 （TEL：075-751-4024）